



第20話 (販売システムIV)



タヌキ、今度はSQL文の残りの2つ、**UPDATE**と**DELETE**の話だ。この2つについては、アクセスするユーザが使用することはない。この権限をユーザに許可したら、データベースが破壊されることになる。権利設定時には十分注意してくれよ。

この2つの命令は、データベースの管理者が使うものだ。管理者ならば、販売停止の商品を削除したり、値段の変更が必要になるだろう。また、過去にアクセスしたユーザ情報を削除しなければならない状況も発生するだろう。

管理者ならば、データベースサーバにログインし、**UPDATE**や**DELETE**のコマンドを直接使うこともできるが、ここでは、データベース管理用のプログラムをPHPで作り、運用する場合を想定する。**最初は、UPDATE**だ。

アクセスしてきた顧客番号GK11のユーザ、東京太郎が、A002の商品を2個購入した商品を5個購入したように変更するぞ。



キツネ、お客さんの購入データを勝手に書き換えたらダメだろうが。



タヌキ、仮の話だよ。当然こんなことをしたら、二度とネットショップを利用しなくなるよ。

この場合、第19話のrtest03.phpのスクリプトを以下のように**追加から更新に変更する**。変更したrtest03.phpをrtest031.phpとして保存する。保存場所は前回同様「/var/www/html」のディレクトリだ。

テーブル上のレコードの更新 (Update 文)

rtest031.php

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>データベースの更新と顧客への通知</TITLE>
</HEAD>
<BODY>

<?php
$userCode = $_GET['userCode'];
$shoSu = $_GET['shoSu'];

$conid1 = mysqli_connect("localhost","ftpuser","ftpuser","cdfox");
// $conid1 = mysqli_connect('localhost', 'user', 'pass', 'shop');

// 接続状況をチェックします
if (mysqli_connect_errno()) {
    die("データベースに接続できません:" . mysqli_connect_error() . "¥n");
}
echo "データベースの接続に成功しました。¥n";

$query = "update cduser set kazu = '$shoSu' where ucode = '$userCode'";
// クエリを実行します。
if (mysqli_query($conid1, $query)) {
    echo "更新 に成功しました。¥n";
}
// 接続を閉じます
mysqli_close($conid1);
?>

<BR>
cduser テーブルへ 1 件の顧客レコードを更新しました！<BR>
</BODY>
</HTML>
```



タヌキ、右図のように購入数量 [kazu] が2から5に変更になっていることを確認してね。

```
Database changed
MariaDB [ cdfox ]> select * from cduser;
+-----+-----+-----+-----+
| ucode | uname      | rireki | kazu |
+-----+-----+-----+-----+
| GK11  | 東京  太郎 | A002   | 5    |
+-----+-----+-----+-----+
1 row in set (0.00 sec)

MariaDB [ cdfox ]> exit
Bye
pi@raspberrypi:~$
```



確認するけど、何かプログラムが足りないような気がするのだが。このままだと、rtest031.php の \$shoSu の値が0になる、と思うんだ。



そうだよ、\$shoSu の値が0になることに気が付いたのは偉いけど。rtest031.php も rtest01.html を実行し、それから rtest021.php を呼び出し、rtest031.php に辿りつくのだから、rtest021.php のプログラムを若干変更しなければならないよ。それらをまとめたものが管理用システム、となるのだ。タヌキもそろそろ応用力を発揮してね。いつまでもオイラに頼っていたらタメだよ。次は DELETE (レコードの削除) だ。これもスタートは rtest01.html だからね、この部分の変更はまかせるよ。



仮に、顧客番号 GK11 のユーザ、東京太郎から、顧客名簿の自分の購入履歴を削除してほしい、という依頼が発生したと仮定する。GK11 を条件に、該当するレコードを削除する為に rtest03.php のスクリプトを次のように追加から削除に変更する。変更した rtest03.php を rtest032.php として保存する。保存先は前回同様「/var/www/html」のディレクトリだ。

テーブル上のレコードの削除 (Delete 文)

rtest032.php

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>レコードの削除と顧客への通知</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<?php
$userCode = $_GET['userCode'];
$conid1 = mysqli_connect("localhost","ftpuser","ftpuser","cdfox");
    if (mysqli_connect_errno()) {
        die("データベースに接続できません:" . mysqli_connect_error() . "¥n");
    }
    echo "データベースの接続に成功しました。 ¥n";
    $query = "delete from cduser where ucode = '$userCode'";
    // クエリを実行します。
    if (mysqli_query($conid1, $query)) {
        echo "1件削除しました。 ¥n";
    }
mysqli_close($conid1);
?>
<BR>
cduser テーブルからあなたのレコードを削除しました！ <BR>
</BODY>
</HTML>
```

[ブラウザの表示]

← → ↻ ⓘ 保護されていない通信 | www.masa.jp/rtest03

データベースの接続に成功しました。 1件削除しました。
cduserテーブルからあなたのレコードを削除しました！



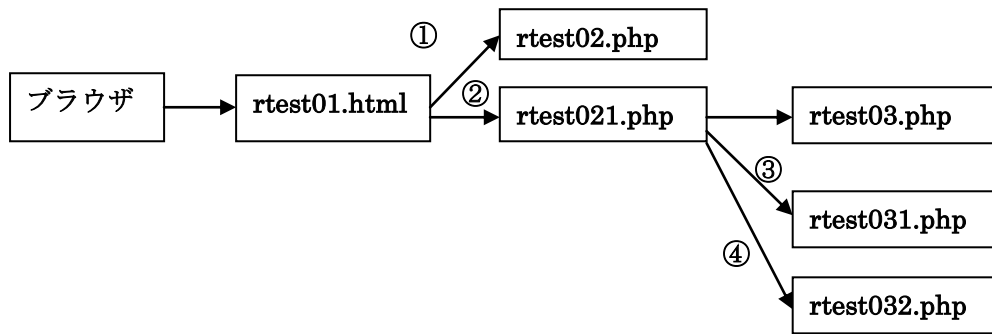
データベースを確認したら、cduser テーブルは「empty」(空)と表示され、何もないようだぞ。

```
Database: cdfox
MariaDB [ cdfox ]> select * from cduser;
Empty set (0.00 sec)

MariaDB [ cdfox ]>
```



当然です。cduser テーブルには「東京太郎」の1ユーザのレコードしかなかったのだから、それを削除したら「empty」です。
では、これまでの流れ、つまり起動順を以下にまとめておくれ。



以上で Select、Insert、Update、Delete の基本的な SQL 命令の学習は、終了したよ。でもまだ勉強しなければならないことがあるのだよ。何かと言えば、メールサーバとの組み合わせだ。タヌキもネットショップで買い物をした時に、「注文を受け付けました。購入商品は xxxx です」というメールが送信されてきたことを経験したことがあるだろう。次回 **(第21話)** は、その仕組みを解説することにする。



ある、ある。購入したら、即メールがくるので、ショップの管理者は、いつも PC に向かっていて大変な仕事だな、と思っていた。
その仕組みを教えてくれるのか、楽しみだな！